

事業の概要

事業名	都市計画道路長浜太宰府線 (須玖南工区)		路線名	福岡広域都市計画道路 3・3・1-21長浜太宰府線		県道名	一般県道板付牛頸筑紫野線	
起終点	自：春日市須玖南3丁目 至：春日市須玖南6丁目		整備方式	新設バイパス				
延長	720m	現況	幅員	7.0m	車線数	2	交通量	13,720台/日 (R6.2実測値)
		計画		22.0m				4
全体事業費	約60億円		事業年度	令和6年度～令和15年度		B/C	2.1	

1) 路線の概要

都市計画道路長浜太宰府線は、福岡市を起点とし、春日市、大野城市、筑紫野市を經由して、太宰府市を終点とする延長約20.0kmの都市計画道路である。福岡都市圏の南北軸を形成するとともに、国道202号福岡外環状道路や、主要地方道大野城二丈線、主要地方道福岡早良大野城線といった東西軸を形成する道路を連絡する機能を担っている。

2) 事業の必要性

①福岡都市圏南部の広域幹線道路ネットワークの強化

都市計画道路長浜太宰府線は、福岡都心部と都市圏南部を連絡する重要な路線であり、南北方向の自動車交通量は、将来に向けて増加傾向(1.18倍：H27～R22)にあるため、広域幹線道路ネットワークの強化に必要な路線整備が必要である。また、第2次春日市都市計画マスタープランにおいても、福岡都市圏の機能連携を担う広域連携軸として(都)長浜太宰府線の整備促進が位置付けられている。

②円滑な交通流動の確保

本事業区間周辺には、主要渋滞箇所が8箇所存在しており、一般県道板付牛頸筑紫野線や主要地方道福岡筑紫野線などの南北幹線道路では、慢性的な交通混雑が発生している。これらの道路の交通混雑を緩和し、円滑な交通流動を確保するため、本路線の整備が必要である。

③安全性の確保

現道である一般県道板付牛頸筑紫野線は、通学路に指定してあるにもかかわらず、歩道が未整備である。また、自動車交通量が13,720台/日、歩行者交通量が302人/日(R6.2実測値)と非常に多く、須玖交差点から春日中前交差点までの約700m区間においてH29～R2までの4年間で36件の事故が発生しており、安全な道路空間を確保する必要がある。

3) 事業により期待される効果

①福岡都市圏南部の広域幹線道路ネットワークの強化

本事業区間の整備により、福岡都市圏南部と福岡都心部の円滑な交通体系の充実、緊急輸送道路ネットワークの強化、広域的な幹線道路と連絡することによる福岡空港や博多港へのアクセス向上が図られるなど、福岡都市圏南部の広域幹線道路ネットワークの強化が期待される。

②円滑な交通流動の確保

本事業区間の整備により、現道である一般県道板付牛頸筑紫野線をはじめ、国道385号や福岡筑紫野線などの南北方向の幹線道路の交通量が分散され、都市圏南部の広域幹線道路ネットワーク全体として総走行時間の短縮による交通流動の円滑化が期待される。

③安全性の確保

本事業区間の整備により、自動車と自転車・歩行者が分離され、安全な道路空間が確保される。また、現道から交通量が転換されることにより、交通量減少に伴う安全性の向上が期待される。

関連事業 長浜太宰府線(須玖北工区：福岡外環状道路～主要地方道大野城二丈線 事業中：H28～R11(予定))
那珂川宇美線(下白水西工区：事業中：H27～R8(予定))

要望状況

・平成25年に沿線における春日市5自治会(須玖北地区、須玖南地区、昇町地区、下白水北地区、下白水南地区)及び春日市長から福岡県に対して要望書が提出され、平成26年以降、長浜太宰府線建設促進期成会として、継続して要望書が提出されている。また、都市圏広域行政推進協議会においても、平成25年以降、継続して提言要望がなされている。

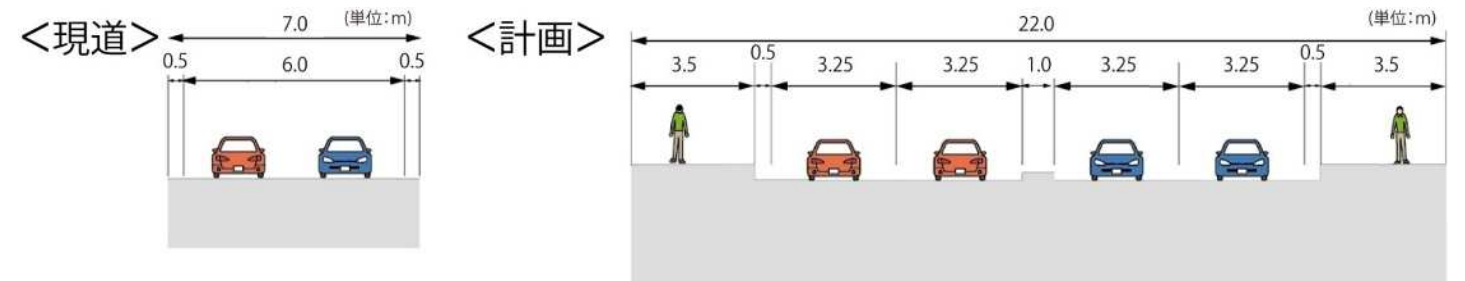
位置図



平面図



標準断面図



現道(一般県道板付牛頸筑紫野線)の現状 ※写真位置は上記平面図参照



①通勤通学時間帯の渋滞状況 ②通学、信号待ちの状況 ③中間地点市道の整備状況 ④終点側の整備状況